

# 国 語

## 注 意

1. 問題は全部で13ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その2)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

### マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答がイのとき)



4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり折り曲げたりしないこと。

— 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

元来は、無資源国の日本が輸出をしなくてはならないのは、国民の生活水準を高めるために必要な資源や製品を輸入する外貨を獲得するためだったはずだ。しかし、一九八〇年代以降の日本経済では、輸出は輸入をするための手段ではなくなり、国内需要の不足を補うための手段になった。外需を増やさないと、失業問題が深刻化するようになったからだ。輸入をするための手段にすぎなかった輸出は、いつの間にか日本経済の安定を維持するための経済政策の目的と化してしまったのである。

この頃から、日本経済は国内の民間需要だけでは企業活動を支えることができない状態となった。輸出を拡大するか、大幅な財政赤字を出すかして需要を作り、経済を支えなければ、仕事がなくて大量の失業者が出てしまう。大量の製品を海外へ輸出したり、政府が国債の発行で資金を調達して様々な公共事業を実施したりなどしなければ、生産設備も労働者も

A 構造となつてしまつたのだ。

輸入をするための外貨を稼ぐという目的で日本が輸出をしているのであれば、日本は輸出で稼いだお金でより多くの輸入品を買う。日本の製品を輸入している国では輸入が増えるが、同時に日本向けの輸出も増えるので、日本からの輸出が増えることによつて全体として需要が減少することはない。しかし、日本は輸入の増加よりも輸出の増加が圧倒的に大きく、モノを売りつける割には自国製品を買ってくれないので、日本の製品を輸入している国は需要の減少に直面することになった。「失業の輸出」という日本に対する批判は、<sup>3</sup> まつたくの外れな非難というわけではなかつたのである。

\* リーマン・ショックが起きる直前の二〇〇七年の数字で見よう。海外から天然資源や食料品を輸入するために必要なお金は六七・四兆円だった。旅行などのサービスマネジメントの赤字二・五兆円を合わせても、六九・九兆円ほどの輸出があれば十分である。しかし、実際の輸出は七九・七兆円で、九・八兆円もの黒字が出ていた。

九・八兆円分の輸出がなかつたら、日本では大量の失業者が出ていただろう。しかし、資源や食料品を海外から輸入しなくてはならないという理由からは、<sup>4</sup> 九・八兆円分の貿易・サービスマネジメントの黒字は不要である。九・八兆円分の輸出は、それだけのも

のを生産する人の仕事を作り出すために必要だったのだ。海外から製品や原材料を輸入するための外貨を稼ぐという目的で輸出をするのであれば円安は必ずしも効率のよい方法ではないが、<sup>5</sup>仕事を増やすために輸出をするのであれば円安が都合だ。

一ドル一〇〇円から二〇〇円へと円安・ドル高が起これば、日本国内で一〇〇万円のテレビは、米国では一〇〇〇ドルから五〇〇ドルに下がる。これまでテレビを一台売れば一〇〇〇ドル手に入ったが、一ドルが二〇〇円になったら二台売らなくてはならない。製品を一つ売って手に入る外貨が減ってしまうのだから、外貨を稼ぐという観点からは円安はよいこととは言い難い。一〇〇〇ドル稼ぐためにテレビを二台作らなくてはならないから、円安が起ころる前の「二倍働かなくてはならない」。しかし、一〇〇〇ドルのテレビは一台しか売れないが、五〇〇ドルならば二台売れる。これは裏を返すと「二倍働けるので、二倍の人が仕事にありつける」ということでもある。

B

、円安は失業対策としては申し分のない手段なのだ。

不得手なものの生産を他の国に任せて輸入し、自国が得意なものの生産に特化すれば、貿易の利益が得られる。つまり、日本は得意なものを生産して輸出することで利益が得られるのではなく、苦手なものを外国に生産してもらい、それを輸入することで初めて利益が得られるのだ。

<sup>6</sup>日本国内で消費するものは何でも国内で生産するのではなく、国内生産に適さないものは海外から輸入した方がよい。これは「比較優位の理論」といわれ、経済学で最も重要で基本的な理論の一つである。経済学を少しでもかじったことがある人なら、誰でも一度は聞いたことがあるだろう。この理論については、ノーベル経済学賞を受賞したポール・サミュエルソンが、経済理論は難しそうに見えるが、我々の常識を超えるものはないのではないかといわれて、比較優位の理論がある、と答えたという<sup>a</sup>イツワがある。しかし、実はそうだったサミュエルソン自身が、比較優位の理論について直感的で分かりやすい説明をしている。サミュエルソンが書いた経済学の教科書は、一九四八年に出版されて以来、半世紀にもわたって世界中で読まれた、経済学の入門書の定番だった。この教科書では、国際貿易が行われる理由として、「生産諸条件の多様性」「費用の**削減**」<sup>b</sup>「嗜好<sup>しよ</sup>における違い」という二つの常識的な理由だけではなく、比較優位の理論が分業を引き起こす大きな理由だとして、「常識を超えるようなより深遠な原理が、あらゆる交易——家庭内にせよ、一国内にせよ、そして諸国間にせよ——を基礎付けているのである」と説明

している。

比較優位の理論の説明の中には、有名な「タイプも上手な弁護士」のたとえ話がある。それによれば、町で一番有能な弁護士が、同時にタイプも町で一番うまいというときに、この弁護士は自分で書類をタイプするべきではなく、自分より能率が悪くても秘書にタイプをさせて、自分は法律問題に集中するべきだというのだ。

このたとえ話には多くの人が納得するだろうが、比較優位の理論ほど実社会では誤解されたり、無視されたりしているものも少ない。高名な経済人が、比較優位についてとんでもない間違いをいうのを何度も聞いたことがあるし、貿易の話になると、国際分業という発想はすっかりどこかに飛んでいってしまい、何でも国内で生産して海外に売った方がよいと考える人が多いのだ。

比較優位の理論によれば、たとえば日本と中国が貿易を行うとき、衣料品も電気製品も中国で生産した方が安くできるとしても、中国はどちらか自国の得意な方を生産し、もう一方の生産を日本に任せただ方が、中国にとつても日本にとつても利益になる。中国がすべての製品の生産を行い、日本では生産がまったく行われなくなるということはないのだ。

さらに、最近の先進国間の貿易構造を見ると、日本が自動車、米国が電子機器といった、比較優位の理論が想定したような製品ごとや産業ごとの分業が行われるだけではないようだ。日本から欧州へ自動車が輸出されているが、逆に欧州からも日本へ自動車が輸出されているというように、同じ産業の中や同じ製品でも貿易が行われるという水平分業が成り立っている。国際的な役割分担を行うべき生産物の種類は国の数よりもはるかに多く、国際分業が進んでいっても、何も作るべきものがないという国は生まれないはずなのだ。

貿易立国とは、国内では自国が得意な産業や輸入が困難な産業に特化し、不得手なものは海外に任せることをいう。自国が得意な製品を輸出して稼いだ資金で、海外から国内生産に向かない多くのものを輸入して、日本に住む人々の生活を豊かにする。輸出だけでなく輸入も、今よりもっと盛んになる。これが本当の意味での貿易立国の姿なのだ。

(植浩一『日本経済が何をやってダメな本当の理由』による)

\*「失業の輸出」＝過剰な輸出が、輸出相手国において雇用の機会を奪い、失業者を増やしていることを批判した言葉。

\*リーマン・ショック＝二〇〇八年九月の、米国の大手投資銀行リーマン・ブラザーズの経営破綻と、その巨額な負債が引き起こした世界的な金融不安。日本でも株価が暴落した。

問一 傍線部①「日本経済の安定を維持するための経済政策の目的と化してしまつた」とあるが、わかりやすく説明するとどのようなことか。最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア 本来輸出は黒字をめざすものであるが、生産量が追いつかず、国内の経済体制の整備を優先するようになったこと。

イ 本来政府が関与しないところで自由に行われる輸出に、経済の安定を図るため日本政府が関与するようになったこと。

ウ 本来国民生活の水準を高めるための輸入を目的とする輸出が、国内の失業を防ぐことを目的とするようになったこと。

エ 以前は世界各国との安定した関係を築くという政治目的を持っていた輸出が、純粋に経済的なものとなったこと。

オ 以前は日本の貿易赤字が大きかったが、黒字に転じた後は黒字になり過ぎないための政策が行われるようになったこと。

問二 傍線部②「大幅な財政赤字を出すかして需要を作り」とは、具体的にはどのようなことか。最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア 政府が国民に借金をしながら、経営状態の悪化した企業を整理すること。

イ 政府が借金をしながら、輸入品を大量に購入すること。

ウ 日本政府が外国に借金をしながら、必要な資源や製品を輸入すること。

エ 政府が借金をして公共事業を実施することで、人為的に雇用を作りだすこと。

オ 地方自治体が政府に借金をして、行政サービスを充実させること。

問三 空欄 A

に入れるのに最適なことばを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

- ア 安泰である
- イ 余ってしまう
- ウ 豊かになる
- エ 不足する
- オ 問題は起きない

問四 傍線部3「まったく的外れな非難というわけではなかったのである」という言い方は、筆者のどのような考えを示しているか。その説明として最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

- ア 筆者は、「失業の輸出」という言い方は激しいもの言いであるが、日本の貿易の本質を衝いていると考えている。
- イ 筆者は、日本の貿易黒字に対する世界からの批判を理論的には誤りとしながら、心情的には深く共感している。
- ウ 筆者は、日本の過剰な輸出による貿易相手国における雇用の減少の解消のために、支援が必要と考えている。
- エ 筆者は、「失業の輸出」という過激な非難が、実は貿易に関する学問的研究に基づくものであったことに驚いている。
- オ 筆者は、「失業の輸出」が世界の新たな貿易体制になりつつあることに、警鐘を鳴らしている。

問五 傍線部4「九・八兆円分の貿易・サービス収支の黒字は不要である」とあるが、なぜか。その理由として最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

- ア この黒字分は、将来問題となつた時にすぐに消化することのできない金額であるから。
- イ 国内需要が高く、堅実な経済体制を維持している日本経済にとっては、余剰に過ぎないから。
- ウ この黒字分がなくとも、安定性の高い日本経済は大きな影響を被らないから。
- エ 輸出相手国から、政治的影響力を強めようとしていると誤解される可能性のある大きな額であるから。
- オ 日本国内では手に入れない資源や製品の輸入に必要な金額は、十分満たしているから。

問六 傍線部「仕事を増やすために輸出をするのであれば円安が好都合だ」とあるが、筆者の考える理由として最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア 円安になると、日本製品を購買する外国の客層が拡大し、日本製品に対する目が厳しくなるから。

イ 円安になると、企業の海外支社でより多くの外国人を雇用できるようになるから。

ウ 円安になると、製品の原料輸入のコストが高まり、国内で調達する機会が増えるから。

エ 円安になると、円安以前と同じ収入を外国から得るため、製品をより多く作ることになり、雇用が増えるから。

オ 円安になると、企業の海外収入を、多様な商品開発費に充てることができるようになるから。

問七 空欄 B に入れるのに最適なことばを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア しかし

イ それにもかかわらず

ウ つまり

エ その上

オ また

問八 傍線部6「比較優位の理論」とあるが、筆者の考える「比較優位の理論」と合致するものを次のア～オから二つ選び、記号をマークせよ。

ア ある製品・産業での優位が明確になった国は、競争相手であった国々をその分野から完全に締め出して、利益を独占してもかまわない。

イ ある国が複数の得意な製品・産業を持っている場合には、全分野にわたって生産力を高めることが、その国にとつても、ひいては世界にとつても大きな利益となる。

ウ ある国が複数の得意な製品・産業を持っていますが、最も得意なものに集中し、その他は他国に任せられた方が、その国にとつても貿易相手国にとつても利益となる。

エ ある国が複数の得意な製品・産業を持っていますが、世界経済の発展のために、いくつかの分野については、その情報と技術を他国に無償で譲ることが望ましい。

オ ある国が複数の得意な製品・産業を持っている場合には、それらに明確に序列を付けて、弱い分野から順に強化してゆくことが、その国の経済の発展をもたらす。

問九 傍線部7「何でも国内で生産して海外に売った方がよい」という考え方はどのような問題を起こすと筆者は考えているか。その説明として最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア この考え方は、貿易相手国は利益を得られず、また輸出する側も輸入が進まず国民の生活は豊かにならない。

イ この考え方を推し進めてゆくと、日本国内に製品が流通しなくなり、国民の生活が圧迫されることになる。

ウ この考え方は、無限に拡大し続ける輸出を政治的に支えるために必要な体制の構築が考慮されていない。

エ この考え方は、国際協調という現代において最も重視される国際政治のルールを全く無視したものである。

オ この考え方は、貿易相手国の理解を得ることができず、常に激しい紛争の危険性を抱え込むことになる。



問十 傍線部8「何も作るべきものがないという国は生まれねはずなのだ」とあるが、なぜか。その理由として最適なもの  
次のア、オから選び、記号をマークせよ。

ア 製品・産業ごとの国際分業が、国際規格に従った全く同じ製品を諸国が役割分担して作るところまで進んでいるから。

イ 製品・産業ごとの国際分業が行われていることに加え、諸国が分担すべき製品も多様なものとなっているから。

ウ 国際的機関によって、一国が全ての製品・産業を独占できないように調整が行われているから。

エ 国際協調の考え方が成熟し、作るものがない国には、先進国が直ちに手を差し伸べ援助するようになってきているから。

オ 国際分業によって多くの利益を得た先進諸国が一致協力して、新たな製品開発に努めているから。

問十一 筆者の主張する「貿易立国」に合致するものを次のア、オから二つ選び、記号をマークせよ。

ア 国内の失業を少なくするために輸出を拡大する。

イ 貿易で得た利益を、外国を経済的に援助することによって還元する。

ウ その国が不得手とする製品・産業は他国に任せる。

エ 資源のない日本のような国は、国際競争力を強め、貿易で他国を圧倒することが必要である。

オ その国が得意とする製品・産業に専心し、手に入れた外貨で資源や製品を多く輸入して生活を豊かにする。

問十二 二重傍線部a「イツワ」を漢字に直し、b「通減」の読みを平仮名で記せ。

二次の文章を読んで、後の問に答えよ。

蝶の花に飛びかひたる、やさしきものの限りなるべし。それも鳴く音の愛なければ、籠に苦しむ身ならぬこそなほめでたけれ。さてこそ莊周が夢もこのものには託しけめ。ただ蜻蛉のみこそかれにはやや並ぶらめど、糸に繋がれ繭にさされて、童もて遊びとなるだに苦しきを、「阿呆の鼻毛に繋がるる」とは、いと口惜しき諺かな。美人の眉にたとへたる蛾という虫もあるものを。

蛙は古今の序に書かれてより、歌よみの部に思はれたること幸ひなれ。おぼろ月夜の風静まりて、遠く聞こゆるはよし。古池に飛んで翁の目覚ましたれば、このものことさらにもそしりがたし。

蟬はただ五月晴れに聞きそめたるほどがよきなり。やや日ざかりに鳴きさかるところは、人の汗しぼる心地す。されば初蝶とも初蛙ともいふことを聞かず、このものばかり初蟬といはるこそ大きな手柄なれ。「やがて死ぬけしきは見えず」と、このものの上は、翁の一句に尽きたりといふべし。

蛩はたぐふべきものもなく、景物の最上なるべし。水に飛びかひ草にすたく。五月の闇はただこのもののためにやとまでぞ覚ゆる。しかるに貧の学者に捕られて、油火のかはりにせられたるは、このものの本意にはあらざるべし。

蝸は多きもやかましからず。暑さは昼の梢に過ぎて、夕べは草に露置くころならむ。つくつく法師という蟬は、筑紫恋しともいふなり。筑紫人の旅に死してこのものになりたりと、世の諺にいへりけり。

蟻は明け暮れに忙しく、世の営みに隙なき人には似たり。東西に集散し、餌を求めてやまず。いつか槐安の都を逃れて、その身のやすきことを得む。さるもたより悪しき方に穴を営みて千丈の堤を崩すべからず。

蚊は憎むべき限りながら、さすが卯月のころ、端居珍しき夕べ、はじめてほのかに聞きたらむ。または長月のころ、力なく残りたるは、寂しき方もあり。蚊帳釣りたる家のさま、蚊遣り焚く里の煙など、かつは風雅の道具ともなれり。藪蚊はことに激し

きを、かの七賢の夜咄よばなしには、いかに団扇うちわの隙ひまなかりけむ。

(横井也有『鶉衣』による)

\* 鶉にさされて 鳥もちによつて捕まえられて。

\* 古今の序 古今和歌集の序文。

\* 「やがて死ぬけしきは見えす」 「やがて死ぬけしきは見えす 蝉の声」という句のこと。

\* 槐安の都 蟻の都。

\* 千丈 非常に長いこと。

\* 七賢 中国、周の時代の七人の賢人。

問一 傍線部「めでたけれ」とあるがどうしてか。次のア、イ、ウ、エから最適なものを選び、記号をマークせよ。

ア 籠に入られて苦しむ姿はかわいらしくない。

イ 優美なものでありながら、鳴く声が美しくないので。

ウ 籠に入られると苦しんで鳴くこともなくなるので。

エ めでるべき声を持たず、籠に入られることもないので。

オ 籠に入られても苦しむようすを見せず、愛らしいので。

問二 傍線部2「莊周が夢」とは、昔、莊周という人が蝶になった夢を見たと思つたが、よくよく考えてみると、人間である自分が蝶になつた夢を見たのか、もともと蝶である自分が莊周という人間になつた夢を見ているのか分からなくなつたという故事であるが、ここではこの故事をどのようなことかたとえとして用いているか。次のアく才から最適なものを選び、記号をマークせよ。

ア 自信を持ってない不安な状態。

イ ものにとらわれない自在な境地。

ウ 蝶のように美しくないのではないかという思い。

エ 泣くこともできない自分は蝶のようであるということ。

オ 夢であるならば、籠に入れられて苦しんでも構わないという気持ち。

問三 二重傍線部AとBの「翁は同一人物である。誰か。漢字で答えよ。

問四 傍線部3「ことさらにもそしりがたし」の意味として最適なものを次のアく才から選び、記号をマークせよ。

ア なおさらけなすことはできない。

イ 極端には非難することはできない。

ウ 特別なものとみなすことはできない。

エ 場合によつては讃えることのできるものである。

オ とんでもないことをするものとして批判すべきである。

問五 傍線部4「聞きそめたるほどがよきなり。やち日さかりに鳴きさかるところ」とあるが、この中の「そめ」と「さかり」を漢字に改めると、どの組み合わせが最適か。次のアく才から選び、記号をマークせよ。

ア 染め・離り

イ 染め・逆り

ウ 染め・盛り

エ 初め・逆り

オ 初め・盛り

問六 傍線部5「草にすたく」の意味として最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア 草に集まる。

イ 草から飛び立つ。

ウ 草のあたりで鳴く。

エ 草のあたりを上下する。

オ 草のあたりに巣を作る。

問七 傍線部6「死し」の活用の種類として最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア シク活用

イ ナ行変格活用

ウ ナ行四段活用

エ サ行四段活用

オ サ行変格活用

問八 傍線部7「身のやすきことを得む」の意味として最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア 軽々しい身となることであろう。

イ 価値のない身となることであろう。

ウ 安楽な身となることであろうか。

エ 営みを苦労なくできる身となるであろうか。

オ やすやすと餌を得ることのできる身となるであろうか。

問九 傍線部8「端居珍しき」とあるが、「端居」が珍しいというのはどうしてか。次のア～オから最適なものを選び、記号をマークせよ。

クセよ。

ア まだそれほど暑くないので。

イ 訪れる者がだれもいないので。

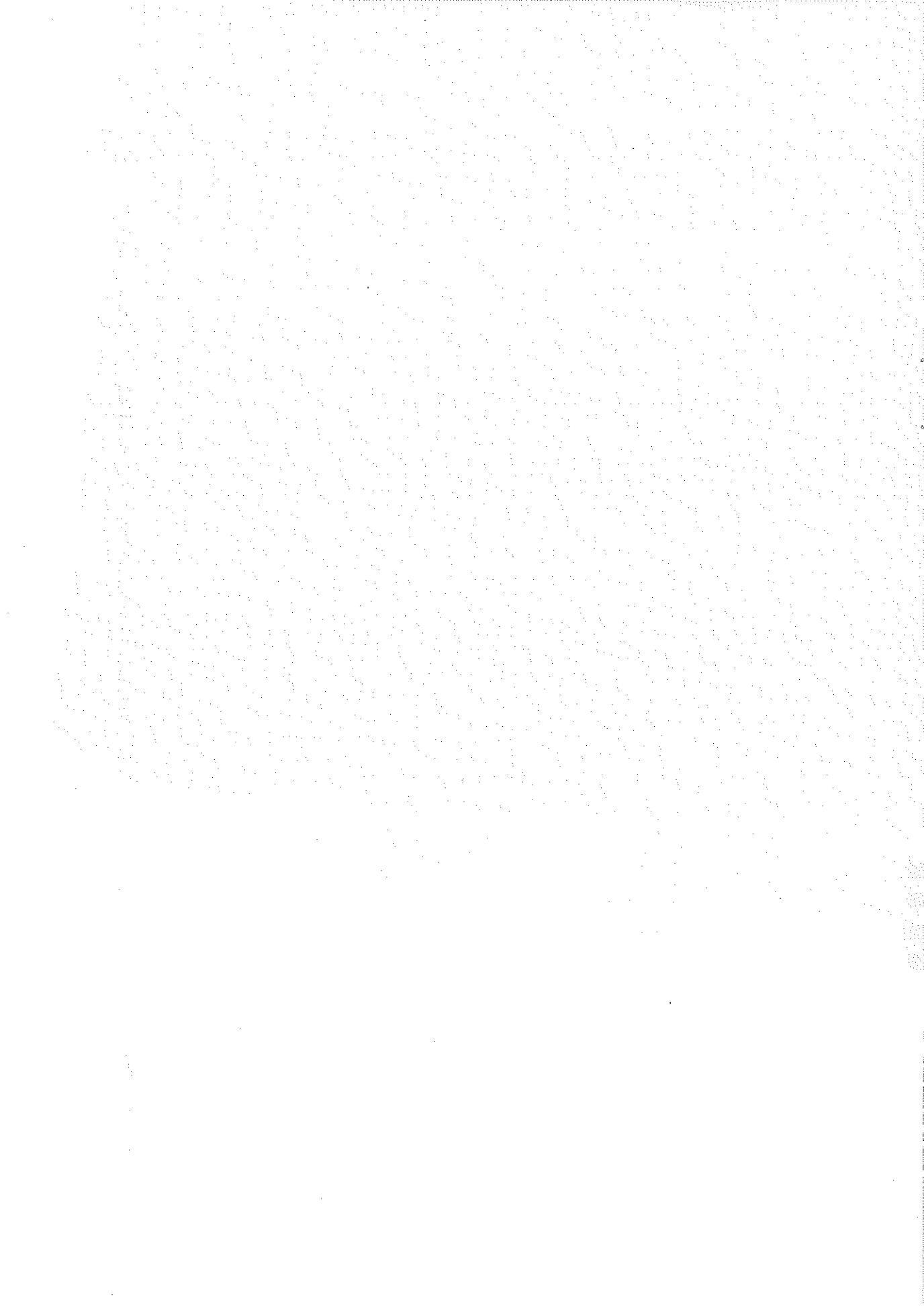
ウ 蚊にさされるのがいやなので。

エ 外から見られるのがいやなので。

オ 庭に見るべき花も咲いていないので。

問十 傍線部C「卯月」、D「長月」とあるが、それぞれ旧暦何月に当たり、季節はいつか。次のア～オから最適な組み合わせを選び、記号をマークせよ。

- ア 二月―冬、七月―夏
- イ 四月―春、九月―夏
- ウ 四月―夏、九月―秋
- エ 五月―夏、十月―秋
- オ 五月―夏、十月―冬





~~~~~

-----